

Water thin-file

oteoglyca subunit

(mg)

t change (

Veight

表面での分子運動を機序とする長寿命人工関節の創発

東京大学 大学院工学系研究科 京本政之、石原一彦



Suppress PE wear

se of cvtok

03

Wear det جیکٹ from PE

13

Figure 1. Schematic model of the mechanisms by which wear debris leads to osteolysis

Osteoclas

http://www.mpc.t.u-tokyo.ac.jp

研究成果

生体関節は運動機能を支える重要な器官である。関節疾患、すなわ ち運動機能の低下は日常の生活動作に大きな支障をきたす。高齢化が 進んでいる現在、外傷や疾患により関節がその機能を発揮できなく なったとき、その代替として用いられている人工関節置換は患者の痛 みをとり、より良い生活の質(QOL)を取り戻す治療として既に確立し ている。しかし、ポリエチレン(PE)摩耗粉が引き起こすインプラン ト周囲の骨吸収と弛みは、人工関節の入れ換え(人工関節再置換術) にいたる主因の一つであり、人工関節置換術における深刻な問題であ る。人工関節の耐用年数(寿命)は約10~15年といわれる現在におい て、人工関節置換術を受けた患者は再置換術の潜在的な対象であり、 その長寿命化は重要な課題である。本研究では、表面分子運動を制御 するという発想から生まれた長寿命人工関節の開発に成功した。

表面分子運動に基づく高潤滑人工関節の設計

分子運動性に起因する特性の発現

